



# か がやく す まいる い いかんじ 通信

## 第3回目「まち全体を見直そう！自分たちの住む地域にはどういふものがあるのか、改めて考えてみよう」

今回の目標は、「コミュニティデザインの考え方を理解し、自分のまちにどのような仕組みがあるか、どのような仕組みがあると生活しやすいかを考えることができる」ようになること。1か月に1回の集まりなので、毎回、前回のふりかえりから入ります。その中で、ワークショップの最大の意義は、「自分事」としてとらえることができやすい、ということ。一方的な講義形式ではなかなか身につかないこともあります。当事者という意識をもって参加することで、ぐっと理解力もUP↑するかもしれませんね。

まずは、齋藤先生の活動紹介から。大正大学ではじめた「コミュニティカフェ～どようびカフェ～」先生自身が、あったらいいなという思いで始められたそうです。カフェといっても、お茶を飲むだけではなく、訪れた人同士がコミュニケーションをとるためのいろいろなしなかけ「ワークショップ」がある「まちの拠点」です。初めは20組程の参加者が、だんだんと増えていき、倍以上の集客ができるようになったそうです。

そんな先生から、最初の質問！「何も予定がない休日に、子どもや家族と遊ぶ時、みなさんはどこで過ごしますか？」ワイワイと話し合いがはじまり、こんなアイデアが上がりました。

- 自宅での過ごし方の工夫→○家で工作する ○「映画デー」のタイトルでみんなで映画鑑賞  
○餃子をみんなでつくる！
- 公共の場を活用→○子ども SKIP や校庭開放、区民ひろばなど  
○水族館や博物館（上板橋の板橋区立教育科学館がおススメ、国立科学博物館の年間パスポートを活用！）

そして、「子育てと地域」についてレクチャー。地域に繋がりがあがる（ソーシャルキャピタルが高い）ほど、失業率や犯罪率は下がり、出生率は上がるという説を例に、特効薬ではないけれど、長期的にみて効果があるのが、今回かすいで取り組もうとしている「コミュニティデザイン」であり、保護者以外に関わりがあり、承認される場も必要なんだというお話がありました。また、特に新しいものを立ち上げるというよりは、今あるものをどう有効に使うか、がカギなんだそうです。そこで、身近にある「町会・自治会」に目を向けてみます。（先生はこの自治会が研究テーマの一つだそうです）先生の個人的な経験から、町会とのかかわりについての事例が挙げられ、お互いにWin-Winの関係をどう築くのか、そして町会組織が特定の個人に頼らずどう持続可能性を担保するのかが課題だというお話がありました。町会こそコミュニティデザインなのだそうです。

最後の質問は、「皆さんの周りにコミュニティデザイン（人と人をつなぐ人・団体・仕組み）はありますか？あるいは、これがあつたらなあと思うことってありますか？」。今回は、ワールドカフェ形式で、話し合いを進めていきました。

そもそも、ワールドカフェとは？…1995年にアニータ・ブラウン氏とデイビット・アイザック氏によって開発・提唱された形式。「知識や知恵は、機能的な会議室の中で生まれるのではなく、人々がオープンに会話をを行い、自由にネットワークを築くことができる『カフェ』のような空間でこそ創発される」という考えに基づく（WORLDCAFE.NETより引用）

リラックスした雰囲気の中で、雑談していると、ふといアイデアが浮かんでくることって、ありますよね！



こんなふうにもつとめました！

1人がホストとして残り、ほかの人は別々のグループへ。新しくグループに参加した人にどんな話し合いがあつたか説明します。



★裏面には、Team 桜 en さんがまとめてくださった記録が掲載されています★

～「かすい」の活動が教育委員会HPにも掲載されています。是非ご覧ください！→



## 【Team 桜 en さんによるまとめ】

第三回目はコミュニティデザインについて学びました。どの班も、模造紙いっぱいになるほど、様々な案ができました。最後は、班を越えて沢山の意見交換ができました。

### Team 桜 en

豊島区内でも近隣区のようにじゃぶじゃぶ池や、子供向け流れるプール、100円体操があれば、との意見が出ました。ボール遊びが思い切り出来る場所、プレーパークが近くにあれば嬉しい、鬼ごっこや逃走中などの遊びを大人数でチーム対決、校庭開放の時間を拡げたり、子育て世代向け広報誌や地域イベント等の情報・メール発信などあったら、等の話が出ました。

### いろいろ 6

ボール遊び、スポーツ、花火、自転車の練習が出来る場所が欲しい。プレーパークや低家賃のコレクティブハウスが増えて欲しい、ママ達の自主サークルが出来るという話が出ました。

### manabono

はらっぱ公園などで一回限りのイベントが結構ある。習い事より気軽に参加できるし、子どもは楽しい上親も休めるので、この様な催しが増えたいという話が出ました。

### チームなかいさん

豊島区は大学が多いので、もっと大学でのコミュニティがあるとうれしい。要町は芸術が盛んで街にモニュメントが飾ってある。スタンプラリーも嬉しい。子供食堂があるがもっとこういう場を増やして欲しい。豊島区には

空き家が多い。(古民家)そういった場所を活用出来ると良い。リタイアした高齢者が子供を預かってくれる。親の相談も聞いてくれたりする。等の話ができました。

### Team Nature

花火のできる場所、クラブに入らなくてもスポーツを自由にできる日・場所、好きなことが思い切り出来る子供のサークル(虫取り、楽器、サッカー等)、ママさんサークルで講師を呼んで子育て学習、居酒屋が休日は子供食堂に変身、などの沢山のアイデアが集まりました。

### チームゴハン

プレーパークやPTAと町会が一緒に行うイベント(肝だめし、芋掘り、お楽しみ会)や南池袋公園やシャンシャインでも様々なイベントをやっています。できたらいいな、気になる、よく見かけるあの人は誰なんだろう、どんな人なのかがわからない。繋がりが希薄で少し不安→見える化。犬の散歩パトロールなど人との繋がりに関する話ができました。

### チーム★Happymama

金剛院で行われている子供食堂に行ったら、とても美味しく心温まる食事が提供されていて感動した。子供も大人もHappyになれる空間だった。課題としては、提示だけでは不安で一步を踏み出せないなので、行った人の話を聞けるなどの機会を増やすこと、実施の回数が増えるといい、という話が出ました。

第3回 みなさんからいただいた感想です(抜粋)

### ★私が気づいたのは…

- ・サードプレイスの存在の重要性。それがあることによって新しい繋がりが出来て関係が広がる。
- ・自治会は(子育て世代にとって)重要だと感じた(が、役員が回ってくるのか?等、気になる)
- ・既にコミュニティ(デザイン)はあり、そこが意図的にデザインされきっていない。
- ・何気なく感じてきたことを具体的な例で色々なコミュニティデザインを認識できた。
- ・主催する側になったことないな。
- ・家の中でも工夫次第、技術次第で楽しめること。
- ・いろいろな人と集まるとアイデアがやすい。
- ・地域の関わりをあまり意識したことがなかったが、地域にやって欲しいと思う事は意外と多いと思いました

### ★私が一番印象に残った言葉は…

- ・サードプレイスとしての子供食堂、ご飯を作らなくて良い開放感!に全員が同意
- ・ファーストプレイス、セカンドプレイスの次のサードプレイスがあると生活、心に余裕が出て充実感が増す
- ・結果的にコミュニティデザインだった。自然な感じに広がると良い
- ・どうして「お父さん」達は(うちもです)公園や区民ひろばでもケータイを見てるのか
- ・親や先生以外の大人として交流して広く社会や企業を知ることが必要。自分の子供に体験させたい
- ・場を使いたい人、場を開きたい人は意外と沢山いる
- ・探せば意外にも色々なものがあるよね。
- ・親が楽しめるのも大事
- ・当事者意識

### ★私にとって必要だと感じたのは…

- ・サードプレイス
- ・もっと情報収集アンテナをたてよう
- ・自分の地域がどんな活動をしているのかもっと目を向けて何を意図しているのか、目指している事など深く考え意識してみたいと思った
- ・もっと地域に期待する感覚
- ・継続性がある、参加者に無理のない働きかけの形を考える事
- ・これからは頑張っても近所でも子どもを楽しませる、連れ出す“気力”と“体力”
- ・子どもを遊ばせられながら自分もリラックスできる場所を探したい(作りたい)と思いました
- ・自治体・町内会の仕事を知らなすぎる
- ・つなぐ事、続ける事、活かす事
- ・他にどんな仕組みが豊島区にあるか。ないものは何かを考える
- ・最初の一步を踏み出す勇気

### ★私がこれから実行しようと決めたことは…

- ・サードプレイスをみつけること。もっと元気になりたい!!
- ・何気なく感じているコミュニティデザインを夏休みに子どもと一緒に実際に言葉に書いてみる
- ・自治体・町内会についてももう少し知って上手に付き合いたい
- ・せっかく色々なイベントが近場にもあるのだからもう少し活用してみる!
- ・集まる人はいても使える「場」がない!これをどうしよう・・・。
- ・これまでずっと“受身側”だったので地域を活性化“させる側”になれるよう挑戦してみたい